



日置市水道料金の改定のお知らせ



令和9年4月以降の使用分から、水道料金を値上げさせていただきます。激変緩和のため、令和9年度は基本料金を、令和10年度から令和13年度は4年かけて従量料金を段階的に改定します。ご理解とご協力をお願いします。（下水道は料金の改定はありません。）

口径別基本料金（1か月分・税抜）

口径	現行 (参考)	新料金 R9以降
13 mm	800円	→ 1,060円
20 mm	1,100円	→ 1,410円
25 mm	1,400円	→ 1,860円
30 mm	2,500円	→ 3,270円
40 mm	3,800円	→ 4,970円
50 mm	7,200円	→ 9,570円
75 mm	14,400円	→ 19,150円
100 mm	23,000円	→ 30,130円

従量料金（1m³あたり）（1か月分・税抜）

使用水量	R9	R10	R11	R12	R13
10m³まで	80円	83円	86円	88円	90円
10m³を超え20m³まで	115円	119円	123円	127円	130円
20m³を超え30m³まで	150円	155円	160円	165円	170円
30m³を超える	160円	165円	170円	175円	180円

◆参考：現行の料金表

（1か月分・税抜）

<従量料金>

10m³まで	10m³を超え20m³まで	20m³を超え30m³まで	30m³を超える
1m³につき 80円	1m³につき 115円	1m³につき 150円	1m³につき 160円

◆料金シミュレーション

口径13mm（水道利用者の95%）の世帯が月20m³を使用した場合

（1か月分：税抜）



現行	800円	+	(80円 × 10m³)	+	(115円 × 10m³)	=	2,750円
R9	1,060円	+	(80円 × 10m³)	+	(115円 × 10m³)	=	3,010円
R10	1,060円	+	(83円 × 10m³)	+	(119円 × 10m³)	=	3,080円
R11	1,060円	+	(86円 × 10m³)	+	(123円 × 10m³)	=	3,150円
R12	1,060円	+	(88円 × 10m³)	+	(127円 × 10m³)	=	3,210円
R13	1,060円	+	(90円 × 10m³)	+	(130円 × 10m³)	=	3,260円

※検針は2か月に一度行うことから、2か月分まとめてのご請求となります。

◆料金改定のタイミング

4月～5月
(検針分)



改定前の料金
(現行料金)

6月計算分
(請求分) から



新料金を適用

検針は2か月に一度行います。

4月から新料金となりますが、新料金の計算は6月1日以降に計算を行う分から反映します。2か月に1回の検針なので、4月検針、5月検針は改定前の3月分を含むためです。例外として、4月以降に開栓し、5月中に閉栓した場合も旧料金で算定します。

5月分までは、改定前の3月分を含むものと含まないものが混在する期間となり、個別に管理や計算が必要となるため、事務負担の軽減と誤請求を防止する観点から、すべてが新料金対象となりシステムで一律処理が可能な**6月計算分**から**新料金の対象**とします。



なぜ水道料金を改定するの？

～持続可能な水道事業のために～



1 背景と構造的課題

日置市の水道事業は、市民の不可欠なライフラインですが、現在、極めて厳しい経営環境に直面しています。

収入の減少



人口減少や節水意識の向上により、今後の水需要（料金収入）の大幅な増加は見込めません。

コストの増大



旧4町の統合に伴う多大な施設（160施設）の維持管理費、資材高騰、人件費上昇が経営を圧迫しています。

老朽化対策



多くの水道管が法定耐用年数を経過していますが、財源・人員不足により耐震化率が低迷しており、今後は施設の集約化（ダウンサイジング）と計画的な更新が急務です。



これまでの電力会社の切り替えや施設統合といった自助努力だけでは、将来の更新需要を賄うことが困難なため、独立採算制を維持し持続可能な水道事業とするために**料金体系の見直しが必要**となりました。



2 財政計画の比較（投資・財政計画より）

料金改定を行わない場合と、基本料金の改定および従量料金の段階的な改定を行った場合の財政計画の比較です。

料金改定を行わない場合

（単位：千円）

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
料金収益	609,280	787,751	794,845	770,090	769,757	765,992	757,727	749,461	741,196	732,948
当年度純利益	112,663	187,735	17,624	1,733	108,747	111,710	98,404	68,579	81,791	71,125
補填財源不足額（基金積立額）	1,675,962	1,417,541	1,327,693	1,051,351	815,209	516,202	363,473	349,704	284,177	217,175

補填財源不足額（基金積立額）は…

水道事業の建設改良費に対し、純利益・起債・補助金を充てた残りを、積立金等で補填できる額です。（一般会計の基金額に相当します）

年々減少し、令和6年度13億2千万円から令和13年度は2億1千万円と非常に財政がひっ迫し、危機的な状態です。

料金改定を行った場合（1年目基本料金改定・2年目以降従量料金を段階的に改定）

（単位：千円）

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
料金収益	609,280	787,751	794,845	770,090	769,757	849,723	855,939	864,543	870,066	873,961
当年度純利益	112,663	187,735	17,624	1,733	108,747	195,441	196,616	183,661	210,661	212,138
補填財源不足額（基金積立額）	1,675,962	1,417,541	1,327,693	1,051,351	815,209	599,933	545,417	646,729	710,072	784,079

改定を行った場合は…

料金収益が増加し、純利益も増加することで、補填財源不足額（基金積立額）も令和13年度には約7億8千万円確保でき、財政の安定が図れます。

料金改定により、将来の更新や維持管理に必要な財源を確保し、安定した経営を目指します。

3 水道事業の状況および経営戦略の概要

施設の現状



水道事業を発足してから60年が経過し、改修が必要な施設があります。



管路は順次耐震に適合する管へ更新していますが、総延長が長いので、耐震化率は約7%にとどまっています。



漏水や設備の修繕に毎年約5,000万円の費用がかかっています。

投資計画（令和13年度まで）

老朽化の解消と強靱化に向けて、管路や施設を計画的に更新していきます。



施設の更新
管路の更新

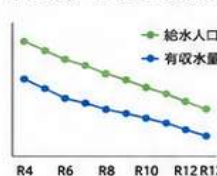
目標

ダウンサイジング（規模の最適化）等の計画的更新を進めます。

収益の推移と基金の状況

- 給水人口と有収水量は年々減少しており、一人当たりの維持コストが増えています。
- 必要な投資を行いながら、将来の財政負担を最小化する必要があります。

給水人口・有収水量の推移



基金額の推移（補填財源不足額）



財源は限りがあるため、将来に先延ばしせず、その時々で対応していく必要があります。



将来にわたり、安心・安全な水を安定してお届けするために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先
日置市上下水道課 099-272-2336